

はじめに

本校は、全クラス専門学科（「エンタープライジング科」）である。外国語系の科目としては、専門科目として1年次は、EEC I と IEC I を、2年次には EEC II と IEC II を設置している。EEC では、独自教材を使用し、ALT との Team Teaching の形式で授業を行っている。また、IEC では、コミュニケーション英語の教科書を使用し、総合的に4技能を伸長する取り組みを行なっている。

A. EEC I (Expressive English Competency I)

EEC I では、前半に“How to Speak”を、後半に“What to Speak”をテーマとして設定し、様々な活動に取り組んでいる。“How to Speak”に取り組む期間は、英語の個々の音素の発音を発音記号とともに学んだり、自然な発話を促すため、ある程度まとまった意味を持つ英文をいくつか暗唱する。自然な抑揚や、強弱の付け方等を学ぶ。“What to Speak”に取り組む期間は、まず、各自が設定するテーマに関連した調べ学習を行ったり、発表のためのスライド作成方法を学ぶことから始まる。最終的には、グループごとにテーマを設定し、ディベートを行う。

1. Voice Training

Sounds of English / Tongue Twisters / Facts

Show & Tell presentation / Interview with a teacher

2. Situational Skits

8 short skits presented in pairs to each teacher, with students changing roles the 2nd time round

3. Public Speaking

Parts of 4 famous speeches to be recited using a memo sheet

4. Slide Presentation

Individual presentations of a topic with a format

5. Debate Skit

6. Full Debate Cycle

Quiz / 2 minute speech / Debate Preparations / Interactive News Reporting / Debate in groups

7. Ad lib speech for 2 minutes

About the IEC I textbook

※ 1-3 “How to Speak” 4-7 “What to Speak”

B. EEC II (Expressive English Competency II)

EEC II では、EEC I に引き続き、前半は2つのディベートサイクルに取り組む。「論拠をもって意見を述べる」ことを目標とし、テーマに関する調べ学習を通して効果的な情報の集め方や、論拠の提示の方法を中心に学ぶ。後半は、Writing Cycle として、ALT とともに英作文に取り組む。

1. Ad lib & Debate Cycles

Ad lib speech for 2 minutes (2h)

Science & Technology Debate Cycle (14 h)

Lifestyle Debate Cycle (12 h)

Ad lib speech for 2 minutes (2 h)

2. Writing Cycles

Writing Cycle 1 (2 h) × 10 times

C. IEC (Integrated English Competency) I&II

IEC では、コミュニケーション英語の教科書を使用している。様々な活動を通し、4技能の伸長を図っている。昨年度、本校で行なった研究発表大会時に英語科全体で取り組んだ活動（Jigsaw Reading / Re-telling Activity）を中心に、各学年を担当するチームで授業構成を考えている。今年度は、IEC I・II 両方で各課の最後に Re-telling 活動を取り入れている。

1. Jigsaw Reading

2. Reading

3. Re-telling Activity

D. 今後の課題

パフォーマンス活動の評価

おわりに

新学習指導要領に沿った新しいカリキュラムが始まり、今年で2年目である。大学受験も変わっていく過渡期である今、時代のニーズに合わせてそれぞれの科目における取り組みも試行錯誤しながら更に良いものにしていかねばならない。また、各活動のバランスや、パフォーマンスの評価など、検討を重ねていかねばならない課題は多い。